

ローカル LLM のご紹介

～ 個人情報・秘匿性の高い文書も、外に情報を出さずに生成 AI で ～

こんな課題はありませんか

- ・ 生成 AI を使っているが、個人情報・企業情報・意思決定前の文書は入力できず、使える業務が限られている
- ・ 業務システムのデータ（申請・問い合わせ・帳票など）を AI で自動処理したいが外部に出せない。ローカル LLM で何ができ、何が必要かわからない

ローカル LLM とは

自治体のネットワーク内の機器で AI（大規模言語モデル）を動かし、入力した情報を外部に送信せずに使う仕組みです。

方式	データの流れ	向いている業務
クラウド型の生成 AI	職員 PC → インターネット → 外部サービスで処理	機密情報を含まない一般的な文書作成（機密情報は原則入力不可）
LGWAN-ASP 型の生成 AI	職員 PC → LGWAN → 事業者のサービスで処理	一般的な文書作成・要約（入力制限はサービスごとに異なる）
ローカル LLM	職員 PC → 自治体のローカルネットワーク内の機器で処理（外部へ送信しない）	個人情報・企業情報・秘匿性の高い文書、業務システムのデータの自動処理

なぜ手元の機器で動くのか（AI を一から育てるのですか？）

- ・ いいえ。一から作る（学習させる）必要はありません。企業や研究機関が公開している学習済みモデル（無償で利用可能）を導入して使います。
- ・ 学習には大規模な設備が必要ですが、できあがったモデルを動かすだけなら高性能な機器 1 台で足ります（モデルを小さくする量子化技術もあります）。
- ・ 庁内の規程等は、質問のたびに参照させる方式（RAG）で使います。入力した情報で AI が学習されることはありません。

できること（検証で確認します）

- ・ 文書の要約・文案作成、問い合わせへの回答案の作成
- ・ 庁内の規程・マニュアルを検索して回答（回答の根拠も表示）
- ・ 業務システムの自動化の試作：分類・項目抽出・帳票の下書き（人が確認して確定。システムへの自動書き込みは行いません）

進め方：初年度は小さく検証

項目	内容
規模・期間	10 名程度・2～3 業務。調査・構築で 2～3 か月、検証は 6 か月
機器・ソフト	機器は 1 台（自治体の資産として調達）。モデル・ソフトウェアは無償のオープンソース
設置場所	既存のサーバー室や委託先環境も含めて協議
検証後	結果をもとに全庁利用の規模と費用を整理
費用	初年度（検証）の概算は、提案書でご案内します

詳しい資料「ローカル LLM の提案書（17 ページ）」をご希望の方はご連絡ください。

株式会社シーイマジネーションズ <https://i-tools.jp>